

## ディスコグラフィー収載

### ディスコグラフィー【2017No.73】(HP 収載)

分類：CD

作曲家：フレデリック・ショパン

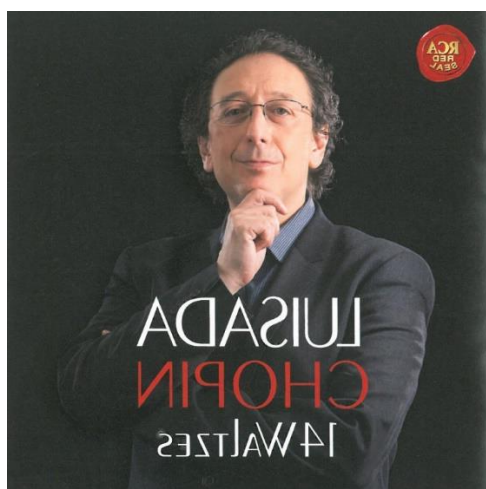
曲名：ワルツ第1番変ホ長調作品18「華麗なる大円舞曲」他

演奏：ジャン=マルク・ルイサダ

発売：Sony Music Labels

No.：SICC10213

堀米ゆず子とルイサダのデュオコンサートに行って買い求めてきたCDです。



ネット上の情報を以下に引用します。

「ルイサダ、23年を経て、その原点へと回帰

■コルトー、フランソワなど、フランスのロマンティック・ピアノの伝統を継承、音楽から湧き上がるファンタジーを变幻自在に具現化する個性派ピアニスト・ルイサダの最新盤は、ショパンのワルツ集です。

■1985年のショパン・コンクール以来、「類まれなショパン演奏家」として、ショパン演奏で高い評価を得てきたルイサダ。彼が国際的な認知度と、日本での知名度を上げるきっかけとなったのが1990年録音の「ショパン：ワルツ集」でした。その旧盤から23年を経た今、円熟の極みにあるルイサダが持して取り組んだ再録音が当アルバムです。三拍子のワルツという形式に封じ込められたショパンの感情の機微や移ろいを、これ以上ないほどの豊かで多彩な音と表現のパレットで描き出しています。ワルツの収録順も独自の配列です。

■今回は、1970～90年代に、グラモフォンでカラヤンやミケランジェリをはじめとする巨匠の名盤を数多く手掛けてきたコード・ガーベンがプロデュース。ガーベンこそは

ルイサダのグラモフォンとの契約を実現させた人物で、このたび 23 年を経て再びルイサダと邂逅、その深まりつつある芸術を録音に刻み込んでいます。」

[収録曲]

ショパン

1. 14 のワルツ

- (1) ワルツ第 1 番変ホ長調作品 18 「華麗なる大円舞曲」
- (2) ワルツ第 3 番イ短調作品 34 の 2
- (3) ワルツ第 4 番へ長調作品 34 の 3
- (4) ワルツ第 12 番へ短調作品 70 の 2
- (5) ワルツ第 13 番変二長調作品 70 の 3
- (6) ワルツ第 14 番ホ短調 (遺作)
- (7) ワルツ第 9 番変イ長調作品 69 の 1 「別れのワルツ」
- (8) ワルツ第 6 番変ニ長調作品 64 の 1 「小犬のワルツ」
- (9) ワルツ第 7 番嬰ハ短調作品 64 の 2
- (10) ワルツ第 8 番変イ長調作品 64 の 3
- (11) ワルツ第 11 番変ト長調作品 70 の 1
- (12) ワルツ第 5 番変イ長調作品 42
- (13) ワルツ第 10 番ロ短調作品 69 の 2
- (14) ワルツ第 2 番変イ長調作品 34 の 1

2. 4 つのマズルカ作品 67 (遺作)

- (1) マズルカ第 42 番ト長調作品 67-1
- (2) マズルカ第 43 番ト短調作品 67-2
- (3) マズルカ第 44 番ハ長調作品 67-3
- (4) マズルカ第 45 番イ短調作品 67-4

3. 4 つのマズルカ作品 68 (遺作) より

- (1) マズルカ第 46 番ハ長調作品 68 の 1
- (2) マズルカ第 47 番イ短調作品 68 の 2
- (3) マズルカ第 48 番へ短調作品 68 の 3

[演奏] ジャン=マルク・ルイサダ (ピアノ)

[録音] 2013 年 11 月 26 日~28 日、アクロス福岡シンフォニーホール

[プロデューサー] コード・ガーベン

[バランス・エンジニア] 櫻井卓 (PAU Ltd.)

[マスタリング・エンジニア] 杉本一家 (ビクタークリエイティブメディア)

[使用ピアノ] ヤマハ CFIIS

[調律] 鈴木俊郎 (ヤマハ)

CD の再生は、①PC 用 USB-CD ドライブ→fidata→USB ハブ→Sonica DAC (USB 入

力) の他、意外に音が良いことがわかってきた、②DMR-UBZ1 のドライブからの再生も行いました。

ルイサダのピアノは、演奏会で聴いてきたとおり、抒情的センスにあふれたもので、ヤマハのクリーンな音とよくマッチしています。ネット情報によれば、ルイサダはショパン弾きらしく、ショパンの抒情性を引き出してくれています。再生ルートの音に関しては、意外にも②の細身の音が、いかにもヤマハのショパンという印象で好ましく感じられます。

以上